

〔中越地震から20年〕

講演会と現地見学会を開催しました。

『長岡市山古志(旧山古志村)を襲った土砂災害、そして復興とその後』

令和6年10月23日に「平成16年新潟県中越地震」発生から20年になりました。当時を振り返ることで、改めて自然災害の恐ろしさとこれからの防災に関する心構えを考えていただく機会として、令和6年10月26日(土)に講演会と現地見学会を開催しました。

午前は、元山古志村職員 関 様からは地震発生直後の状況や山古志地域の復興までの道のりについて、元湯沢砂防事務所長 西井 様からは当時の土砂災害対応について講演いただきました。午後は、やまこし復興交流館おらたる、東竹沢地区河道閉塞発生現場、木籠集落水没家屋の3箇所を訪れました。

参加者からは、「改めて地震の怖さを知ることができた」といった意見や中には主催者に対して「土砂災害が発生する危険性は事前に把握できなかったのか」など厳しい質問もあり、参加者の土砂災害に対する認識の深さを感じました。



講演会の様子



質疑応答の様子
(講演者及び事務所長)



やまこし復興交流館おらたるの様子
(おらたる職員(被災経験者)による説明)



東竹沢地区河道閉塞発生現場
見学の様子



木籠集落水没家屋
見学の様子



見学会参加者一同で記念撮影
(震災資料館 郷見庵前にて)